

自己評価および外部評価結果(第二ユニット東)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝8:45なごみ事務所に掲げている「なごみ基本理念」を当日の職員で斉唱することで気持ちを新たに1日の始まりとして実践に繋げている。この場を管理者と職員間の情報共有と注意事項の確認をする機会にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域コミュニティに溶け込む為に情報を頂き、地域行事の案内があれば、できるだけ行事に参加しています。たとえば(溝掃除、草刈り、小学校PTA主催資源回収事業協力、秋祭り御花料、友愛セール参加、里庄西小学校、かすみ保育園との交流etc)のようにこちらから出向いたり、ホームに来て頂いたりしてなじみの関係を築いており地域の一員として利用者が生活できる環境をこれからも充実していきたいと考えている。利用者と散歩途中行き交う近所の方や子供たちと挨拶しあったりして気軽なかかわりを大事にしたいと取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議に於いて行政担当者や民生委員、公民館など地域の人々に一番近い所におられる方に認知症の人を取り巻く環境、それに対しての支援について実践していることを知っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回議事録を作成し意見や疑問点をそのままにせず次回開催までに評価ならびに問題解決につなげ報告出来るように事業所内で話し合いを行いサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域行政担当者と密接に連携を図り情報の収集や指導を仰いでケアサービスに役立てている。特に認知症対策・感染症予防対策など研修の機会を通じ、今後の取り組みなどを伝えご協力を頂き有り難いと感じています。また、介護認定更新の際に利用者の日常生活の様子やニーズに対する取り組みなど伝えアドバイスを頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は利用者の言葉や気持ちに耳を傾け、常に様子を見守っていますが落ち着かない利用者の激しい脱出願望がある場合は身体拘束はせず、家族に説明をして一時的にリビングの一部施錠を行い、事故の発生に繋げない措置をすることがある。安全・安心を第一にまずは利用者の話を聞き、不穏の原因を探り、必要であれば家族の協力を頂き、希望を叶えて不安を取り除く取り組みをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が基本理念を念頭に言葉の虐待、身体虐待、心理的虐待がないか、自由や個人の尊厳を守って温かみのある関わりが出来るか振り返り職員同士お互いのケアに注意を払い、防止に努めている。落ち着かない利用者や訴えの多い利用者への対応で職員自身にストレス・疲労が溜まることがあるので管理者は職員の健康管理に留意しミーティングの中で共感、あるいは解決の手段を話し合い利用者への適切な支援が行われるよう展開している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員自ら権利擁護に関する制度について勉強する機会を捉え、理解と活用に活かしている。研修会に参加して得た知識を職場に持ち帰りカンファレンスの後に時間を作り、勉強会を開いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の不安やご家族の疑問に丁寧な説明を行い理解と納得を頂いたうえで契約して頂いている。介護度区分変更に伴う料金改定時、介護用品の選択についても価格を含め利用者や家族とよくコミュニケーションし納得して頂いている。医療機関、薬局についても説明し対応可能な範囲で委任の了解を頂き、往診や通院の便宜を図っている。またリスク・重度化時・看取りなど事業所の取り組み、ケア方針について説明して不安のないよう話し合って理解・納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見・要望を言いやすい雰囲気を作り、家族には面会時「何かご要望はありませんか」と声掛けしたり、定期的に利用者の様子をお知らせするようにして家族と日頃からなんでも言ってもらえる関係を築いている。日常会話で十分に気持ちを表せない利用者も居られるので感情・表情から気持ちを察して少しでも居心地の良い生活が出来るよう支援している。地域運営推進会議にも利用者家族の参加を願ひし意見・要望を頂いて満足度の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者は職員からアイデア・意見を聞き運営に反映させるよう心掛けてはいるが、十分でないかも知れず、これからも機会を見つけ意見交換をしていきたい。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の努力と成果を把握し働き甲斐のある職場環境を整備するため現場に来て様子を見たりリーダー会議で就業環境の報告を聞き、把握している。職員の健康管理を含め資格取得支援など接遇に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	継続して「宇根本会勉強会」を開催しているので職員に可能な範囲の参加を推進している。外部研修にも積極的に参加してもらい内容をカンファレンスの時発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者や職員に管理者交流会などへの参加を奨励し、ネットワークづくりや学習会を通じた交流が図れるよう支援している。管理者や職員は地域の交流会に参加してサービス向上に役立っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは家族からの入居希望の申し出から始まり、ご本人や家族の様子や困っている具体的な問題点を聞き取り、場合によって関わりのあるケアマネジャー、生活相談員からの情報提供をもらい生活状況を把握して上で事前面談を行う流れがあります。ご本人の思いや不安を受容し安心していただけるように共感的理解を示し、警戒心を取り除くアプローチで信頼関係を構築する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の生活状況やそれで困っている事、どういった介護を家族は望むのか。こんな生き方をしてもらいたい。など要望や不安なこと、疑問点などを丁寧に聞き取り、事業所として可能な支援やリスクなど説明し納得できるものか、じっくり話合っって信頼関係を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者にとって家族にとって望むケアはなにか、困ることはなにか、など目標を共有し、共に歩んで行くケアを目指し、個別のニーズを掴むよう話し合い、対応出来る事か、出来ない事かを見極め、出来ない場合も別の事業所につなげるなど柔軟な対応を支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活の質を高めていくケアを目指し、常に一方的な押し付けにならないよう利用者の心に寄り添って人生の先輩として尊敬し支え合う関係を大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や定期的な電話による情報提供で利用者の様子を家族も知り健康状態、心理状態を把握できるようにしている。きめ細かい報告で家族と利用者の絆も深まると考え支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との交流や行事などで外出や外泊は可能である。希望により墓参りや結婚式に参列したこともある。最近では外泊して体調不良につながる事から家族と相談し日帰りに切り替え気分転換を図って頂き利用者の満足を得ている。別の利用者の場合自宅の庭までドライブした事もあった。家族や馴染みの方、散髪は家族の希望もあり理容師の出張サービスをお願いしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性にも配慮してテーブルの配置やテレビの観える位置の調整、音量、レクリエーションの構成など職員が情報を共有し、それぞれの関係性を考慮して利用者同士の関係が円滑にトラブルにならないよう働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関に転院された利用者の部屋を訪問し様子を伺って声を掛けることもありその際にご家族のご苦労をねぎらい少しでも元気になるれば話を聞いている。たまに郵便物が来るので届けて差し上げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活習慣があり暮らし方や感じ方は個別のもので一律の支援ではなく利用者の歩調に合わせ柔軟な対応をしている。しかし訴えに応えにくい場合や環境衛生面において利用者や家族に不愉快な思いをさせない為に、より清潔な環境を提供すること目的によく説明をして協力をお願いすることもある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人を知ることがより良いケアにつながるのでプライバシーに配慮しながら情報収集し職員の間で共有、利用者との関係作りに役立たせてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの暮らしぶり、体調、食欲、処方薬など感じたことを含めスタッフ全員で情報を共有し定時の申し送りを行っている。連絡帳を用意して随時大事な事を記入し、読んだらサインするようにしている。医師の往診時には利用者の容態を報告し異変ある時は処置を仰ぎ適切に対応している。看護師を通じ医師への報告がなされ健康管理に安心感がある。体調に不安があれば18時・21時の院長定時報告と緊急時は医師・看護師と24時間連携できる体制があり、安心感がある。管理者は随時家族と主治医との連絡役を務め面談が必要な時は双方に働きかけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・関係者と話し合うなどして得たアセスメントから職員間で利用者のニーズを掴みそれに対する目標やケアのあり方について利用者の状態や意見や希望、家族の意向に沿った現状に即した個別の介護計画を作成している。計画に沿ったケアを期間内実施してみて、適切にできたか、問題点があるかなどモニタリングを行い意見やアイデアを次回の介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の日々の様子や体調、支援の実践を時系列で記録したものから一週間が一覧できるケアチェック表を作成している。気付いた事、利用者の関心事、面会や、表情、会話の中で日々の状態・様子が分かる事柄などを個別記録にして残し職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しや実践に活かしている。家族が望めば記録を見てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の行事に利用者が参加できるよう急な場合でも外出・外泊できるように協力したり、利用者の希望があればいつでも電話連絡している。家族の意向に配慮しながら必要な日用品の購入など便宜を図り臨機応変に対応している。季節の行事、誕生日会などに家族の参加を願ひボランティアや地域の資源を利用し多様な関わりが出来るよう取り組んでいるが足りない面もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの情報・協力、またレクリエーション用品の貸し出しなど地域にある資源を利用させてもらったり相談に乗ってもらっている。民生委員、地域の役員などと密接な関係を継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医や薬局の関係以外でも利用者が必要があれば利用者、家族、主治医と相談し適切な医療を受けられるよう支援している。主治医とは定時の連絡、急変時は24時間対応の連携体制が出来ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	配置されている看護職員が日常の様子をチェックしているので安心感がある。気になることを相談したり血糖値の計測など介護職では出来ない医療行為をタイムリーに受けられる。些細な変化や気づきにも丁寧な対応で利用者や介護職員の良き相談相手になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療できるよう、また早期に退院できるよう速やかな情報交換をしている。入院した場合不安や混乱のないよう事業所の職員が顔を見に行ったり、家族にも経過を報告し安心して頂いている。必要な場合衣類の洗濯など出来る事を協力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の容態悪化時は早期に家族と医療機関の話し合いの機会をつくり今後の対応について納得の行く方針を確認して頂くなど事業所として出来る事をする。入居時看取りの対応が出来る旨説明して納得のうえ、終末期の対応はその都度、家族の心の変化に配慮しながら利用者が穏やかな最期を迎えられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に急変や事故発生時に備え、応急手当について地域の消防署で救急救命法、蘇生法の訓練講習を受講している。夜勤時の緊急時対応方法についてもマニュアルを作成し周知させて実際の場面に活かせるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設設備の整備点検は三宅消火器に定期的にお願ひし、消防署の定期査察において不備がないかチェックしてもらい日頃から防災に心がけている。火災、地震時の避難や通報訓練を定期的に行い利用者、職員自身の安全確保に留意している。避難時の地域との協力体制も頂いている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活観・流儀・身についてきた事などを理解し言葉を掛ける時も支援する時も謙虚に接するように心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示のむずかしい利用者に対しての身体介助を行う時、それぞれの思いがあるので「これから、…します。いいですか？」など説明し表情からその方の意思を聞いたり、確認した上で支援に移行するようにしている。どうしたいのか繰り返し意向を確かめる働きかけをして少しでも自己決定してもらえるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや体調に合わせた離臥床や食事の時間、食べやすい食物形状に工夫したり入浴も気が向かない時は、その気になるまで待ったり、体調に合わせた対応をしている。行事があるときは時間に沿って職員の段取りを優先しやすい面もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に意思表示される方には希望の服を着て頂くようにし、特に関心がない方には家族の用意された物の中から職員が選んでさしあげ、身綺麗な装いを支援している。誕生日に似合いそうな衣類を職員が買ってプレゼントしたり手編みの襟巻きや帽子など身に着けていただく事もある。季節にあった身だしなみや皮膚を保護するネットを用意したり散髪は馴染みの理髪店や美容院があれば送迎を支援するが現在は施設に理髪師に来て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事量など利用者の意向に合わせお代わりも可能で食べやすい形、体調に合わせた量にシメニュー、味付けのアンケートを行い献立を業者とともに努力している。食事は職員も利用者と共にテーブルを囲み、家族が来られたら家族の分を用意し皆で頂き和やかな雰囲気大事にしている。庭の畑で出来た野菜を採り食材にすると話の種になり喜ばれる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量、水分量と、排泄回数や形状との関連や体調への影響を細かく観察、把握し毎月体重測定して健康管理している。体調不良で食べにくい時、水分量が少ない時は補助食品を利用したり主治医に報告し医療的措置を受け早く回復できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声かけや見守りをし、出来ない方にはできない所を支援している。義歯の手入れ、管理がきちんと出来るように支援している。歯のない方にはうがいやハミングットを使用し口腔内の清潔を支援している。歯科医院からの往診をお願いした場合、医師の指示があればその際の支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、さりげない声かけや誘導で、トイレでの排泄を促している。一人ひとりの身体機能に応じた対応をし気持ち良い排泄と尿意、便意の訴えを敏感に捉えスムーズな移行を支援している。パット、パンツは利用者に適した物や使い心地の良い、皮膚トラブルに繋がらないものを検討している。陰部の清潔のため、排泄後の陰洗や蒸しタオルでの清拭など支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便を把握し頑固な便秘にならないよう水分摂取を促し食材、食事量、運動量にも目を向け自然な気持ちよい排便が出来るよう支援している。下剤、便を軟らかくする薬が処方されている方には状態に合わせた服薬にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を嫌う利用者には優しく声かけしながら、タイミングよく誘い、脱衣所、風呂場の温度、湯温にも注意し不安を取りのぞき、時には時間や日にちをずらしその気になった時入ってもらったりシャワー浴、足浴、清拭対応など利用者の気持ちを尊重した支援を行っているが清潔の保持は大事で職員の連携でうまくその気になってもらうよう声掛けに工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合った休息や昼夜逆転にならないよう日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。入眠導入剤や不安感を和らげる薬など眠剤服用の方は、日中活動への妨げになっていないか様子観察している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の配薬について処方箋をケースに貼って職員全員が把握し、副作用にちゅういた支援や観察を怠りなくして禁忌の排除している。また誤飲させない為取り扱いが厳重にして全員がチェックサインしている。服薬時ケースから直接本人に手渡しして飲み込みを確認、自力服用が困難な方には職員が口に入れていた。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を唄うのが好きな利用者、散歩が好きな方、自室で気ままに過ごすのが好きな方、学校の先生をしていた方には生徒指導の役でレクリエーションのリードをお願いするなどその方が楽しめるような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によって外出の機会を作っている。行き先は地区の学校であったり近所の散歩コースであったりするが気分転換が出来るよう支援している。ご家族の行事で墓参りや法事で自宅に外出することもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から当座の現金を預かり必要時の買い物に使っている。ほとんどの利用者は地震でのお金の管理ができず、しょくいんが 金銭納帳に記入し折々にご家族の確認を頂いている。しかし毎月の介護費用がいくらかかっているのか確認される利用者には請求書のコピーを渡している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話をしたい方、取次や伝言を頼まれるとタイムリーに応じ希望を叶えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレなど共同生活空間が判断しやすいように目印を扉に表示したり、日中の採光、夜間には適当な明かりで転倒防止をし、室温、湿度にも配慮して快適な空間作りをしている。リビングはゆったりとした広さがあり、ソファや家具、置物を配置し家庭と同様の雰囲気がある。キッチンから料理の匂いがし、掃除機の音、洗濯機の回る音、小鳥のさえずり、テレビの音などがして、壁には写真や季節の彩りを工夫している。カレンダーで日にちを判断してもらえるようにしている。ホームの庭には緑のカーテンや花々が咲き、野菜作りをしている。玄関には季節の花を飾り、靴脱ぎ椅子を用意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにテーブルやソファ、椅子を配し、自由に思い思いの場所で寛げる。食事時には自分の席が用意されているので落ち着いて食事ができるし、お茶の時間やレクリエーションは好きな場所で楽しめる。みんなの近くで少し横になりたいときはリビングにもベッドがあるのでうれしい。別のユニットに行って楽しむのも自由である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口に表札を掲げ、可愛い目印の飾りもつけて明るい雰囲気になっている。部屋には個人の馴染みの家具や思い出の品を置いたり好みの飾り付けが出来て疲れをいやしたりプライバシーの確保ができる。寝具や包布、シーツはいつも清潔な物を提供して安眠できるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力で車いすを操作できる利用者にホーム内の移動が安全にできるようゆったりとしたスペースがあり職員も見守りしやすい見通しが利くような間取りになっている。居室では自力操作がしやすくベッドへの移乗や必要な物に手が届きやすいようベッドの位置や家具の配置を利用者と相談して生活しやすく自立した生活が送れるよう工夫している。		